



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国・大連市近郊農村における農家子弟の職業選択意向に関する事例研究
Author(s)	志賀, 永一
Citation	北海道大学農経論叢, 68, 121-127
Issue Date	2013-04-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53670
Type	departmental bulletin paper
File Information	121-127.pdf



中国・大連市近郊農村における農家子弟の 職業選択意向に関する事例研究

志 賀 永 一

A Case Study of the Career-Choice Intentions of Farmhouse Children in a Farm Village in the Dalian Suburbs of China

Eiichi SHIGA

Summary

There is an economical gap between cities and farming villages in China. Given this situation, this paper examined the career-choice intentions of junior high school students and schoolchildren in a farm village near Dalian.

Despite the implementation of a one-child policy, many examples of two brothers can be seen. The tendency to fall if it becomes a junior high school student, although it is large to the relation to agriculture at the time of a schoolchild was seen. And, when it became a junior high school student, agricultural evaluation was falling.

When the entrance-into-a-school-of-higher-grade intention to the university became a junior high school student, it fell, but there was most entrance-into-a-school-of-higher-grade hope to a university, and almost all children wished going to a university in the schoolchild. It was a grade as which the example as which a junior high school student and a schoolchild choose agriculture illustratively is regarded in a career choice. Also in this example, it became clear that parental influence is great with respect to career-choice intentions of farmhouse.

1. はじめに

中国は高い経済成長を続けてきたが、農業、農村に目を転ずると、いわゆる“三農問題”として指摘されように、都市部と農村部における経済格差問題が存在している（註1）。このような実態の中で、農家子弟は将来の職業選択をどのように考えているのだろうか。これが農家子弟の職業選択意向に注目した理由である。三農問題に加えて、1979年以降継続されてきた“一人っ子政策”により、中国の高齢化問題が指摘されている。こうした中で農家子弟の職業選択意向の実態を把握することは重要な研究であると考え。しかしながら、既存研究においても農家子弟の職業選択意向を対象にした研究は見当たらない。そこで事例農村部

の学校に協力してもらい、簡単なアンケート調査を実施することにした。

すでに報告したように、内モンゴル自治区における牧畜経営を対象にした事例研究においては、自家農業へのかかわりは強くみられた反面、職業として農業を選択する子弟は皆無に近い状況であった。そして、その職業選択には親が他産業従事をすすめていることが基本要因であると考えられた。この事例研究の対象は、中国内陸部の内モンゴル自治区であり、その一地域の牧畜経営の子弟であり、モンゴル族を基本とする少数民族であった（註2）。しかし、この事例研究の結果が、上記のように極めて特徴的な結果を示したことから、他地域での事例研究が必要であると考えられた。そこで中国の中でも経済成長の著しい沿海部の事

例調査を行うことにした。中国沿海部の多くは経済成長も著しいが、需要が増加し、中国においても振興策が講じられている野菜作地域でもある。

事例としたのは、中国、遼寧省の第2の都市である大連市である。大連市は合併により広域となっているが、対象は普蘭店市と瓦房店市の中学2年生と小学4年生である。先の内モンゴル牧畜遊牧地域での事例調査は、小学生を対象にしていた。このため実際の職業選択では変化するのではないか。家の農業の状況如何で変わるのではないか。調査地域によって回答に違いが出るのではないか、などのコメントをいただいた。学校において短時間で実施できるアンケート調査を意図しているため、家の農業の規模や取り組みなどを組み入れることは困難であると判断し、小学生だけでなく中学生に対しても実施することにした。また、アンケート実施地域を大連市近郊としたが、ほぼ同じような農業環境にあると考えられる地域間での相違の有無について検討するため、大連市近郊の2つの地域を対象にした。

以下、両事例地域における農家子弟はどのような職業選択意向を持っているのかを検討することにした。

2. 大連市の農業概要

中国、遼寧省・遼寧半島に位置する大連市は、その立地から中国北部の港湾、交通の基幹都市である。同市は省都である瀋陽市に次ぐ都市であるが、その経済的重要性から地級市や副省級市にも指定されている。大連市は遼東半島の先端部の大半を占める広大な市であり、市内4区と郊外・北方3市などに分けられる。人口は約600万人である。本稿でアンケート調査を実施した瓦房店市と普蘭店市は、北方3市に区分される。大連市の産業は第2次産業が中心で、大連市統計年鑑により2010年の産業別GDP比率を示すと、第1次産業6.7%、第2次産業51.3%、第3次産業42.0%であり、農業の構成比は小さい。農業生産の割合は小さいが、中国農業部がすすめている野菜産地整備計画である「全国野菜重点地域発展計画（2009～2015年）」（2009年7月）においては、上記事例地域は遼寧省の国内供給重点産地ならびに輸出重点産地の双方に指定され、野菜産地への期待が

かかる地域である（註3）。

大連市の第1次産業の動向を示したのが、第1表である。表によれば、2000年から10年間で総産値は3倍強に増加している。第1次産業の中では漁業が中心であり、牧業は増加傾向を示し、農業は停滞状況がみられる。瓦房店市と普蘭店市は、ともに総産値を4倍強に増加させており、牧業の総産値が増加しているが、農業も1/3を占めており、大連市の中では農業が盛んな地域である。また、第2表に農村の概要を示したが、大連市、瓦房店市では郷数の減少がみられ、郷村人口は停滞状況にある。しかしながら、郷村労働者数、そのうちの労働年齢内人口は増加している。

第1表 調査地域の農林業概要

単位：千億元，%

		農林牧漁業総産値	構成比		
			農業	牧業	漁業
大連市	2000	1929.0	33.2	19.9	46.2
	2005	3428.2	23.0	25.8	41.0
	2010	6290.5	26.4	26.4	38.9
うち 瓦房店市	2000	322.1	37.6	25.3	36.5
	2005	697.8	34.6	29.4	23.8
	2010	1231.3	37.9	34.1	20.1
うち 旧普蘭店市	2000	343.0	54.1	24.1	20.2
	2005	583.1	31.2	40.3	18.7
	2010	1448.3	31.7	37.9	21.6

資料：大連市統計年鑑

注：旧普蘭店市の数値は普湾新区の統計値である

第2表 調査地域の農村概要

単位：郷数，千戸，千人

		郷(鎮場)数	郷村戸数	郷村人口	郷村労働者数	うち労働年齢内
大連市	2000	120	917.3	2,922.6	1,344.6	1,177.6
	2005	86	925.0	2,874.9	1,492.8	1,385.9
	2010	69	940.6	2,816.8	1,620.8	1,474.5
うち 瓦房店市	2000	31	221.8	734.0	325.1	281.5
	2005	24	227.4	732.5	390.2	361.6
	2010	21	233.6	725.9	411.0	373.3
うち 旧普蘭店市	2000	17	211.2	688.2	317.5	278.3
	2005	16	204.9	646.3	332.5	310.4
	2010	17	241.7	712.6	398.4	365.0

資料：大連市統計年鑑

注：旧普蘭店市の数値は普湾新区の統計値である

3. 対象児童の農業観と職業選択

1) 対象ときょうだい数

アンケートは2012年9月に実施し、第3表に示したように瓦房店市の中学生30、小学生30、普蘭店市の中学生28、小学生37の回答を得た。男女別では、瓦房店市の事例で男子が多く中学生で60%、小学生で70%であり、普蘭店市は女子が多く、中学生で71%、小学生で54%であった。男子は女子よりも長男との回答が高くなっている。

きょうだいの数では、普蘭店市の中学生で1名

第3表 きょうだいの数

単位：回答数，％

	中学2年		小学4年		中学2年		小学4年	
	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市
総回答数	30	28	30	37	100	100	100	100
兄弟数の回答数	29	28	30	37	96.7	100.0	100.0	100.0
兄弟 1名	9	15	14	12	30.0	53.6	46.7	32.4
2名	19	13	15	19	63.3	46.4	50.0	51.4
3名以上	1	0	1	6	3.3	0.0	3.3	16.2
男	18	8	21	17	60.0	28.6	70.0	45.9
うち長男	16	8	21	11	53.3	28.6	70.0	29.7
女	12	20	9	20	40.0	71.4	30.0	54.1
うち長女	9	18	7	10	30.0	64.3	23.3	27.0

資料：アンケート調査，2012年9月実施

注：未回答を除く集計である

第4表 自家農業とのかかわり

単位：回答数，％

	中学2年		小学4年		中学2年		小学4年	
	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市
回答数	30	28	30	35	100	100	100	100
家の農業の手伝いをしますか								
毎日	12	13	22	26	40.0	46.4	73.3	74.3
1週間に1回程度	9	11	4	8	30.0	39.3	13.3	22.9
月に1回程度	2	1	3	1	6.7	3.6	10.0	2.9
ほとんど手伝わない	7	3	1	0	23.3	10.7	3.3	0.0
忙しい時期には手伝いますか								
はい	24	21	29	31	80.0	75.0	96.7	88.6
いいえ	6	2	1	3	20.0	7.1	3.3	8.6

資料・注：第3表と同じ

第5表 農業の評価（複数回答）

単位：回答数，％

	中学2年		小学4年		中学2年		小学4年	
	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市
回答数	30	28	30	37	100	100	100	100
総回答数・平均選択数	30	108	31	61	1.00	3.86	1.03	1.65
自然を相手にするよい産業	10	21	11	21	33.3	75.0	36.7	56.8
自然を相手にする大変な産業	3	6	3	1	10.0	21.4	10.0	2.7
環境を大事にする産業	3	24	12	12	10.0	85.7	40.0	32.4
環境を壊す産業	1	3	0	0	3.3	10.7	0.0	0.0
労働のきつい産業	12	22	1	6	40.0	78.6	3.3	16.2
労働はきつくない産業	0	6	2	12	0.0	21.4	6.7	32.4
儲かる産業	1	13	2	9	3.3	46.4	6.7	24.3
儲からない産業	0	13	0	0	0.0	46.4	0.0	0.0

資料・注：第3表と同じ

が多いことを除き2名が最も多く、普蘭店市の小学生では3名以上が16%も存在した。一人っ子政策が厳格に採用されていた世代と考えられるが、事例地域においては少数民族地域ではないにもかかわらず、緩やかな運用が行われていたと考えられる。

2) 農業へのかかわりと農業観

第4表に自家農業へのかかわりを示した。自家農業の手伝いは、小学生では70%強が毎日手伝っているのに対して、中学生では毎日手伝う事例は40%台となり、週1回程度手伝う事例が30%台に増加している。また、中学生になるとほとんど手

伝わない事例が10%を上回っている。中学生になると、自家農業とのかかわりが低下していくと考えることができる。ただし、自家農業が忙しいときに手伝う事例は75%を超えており、農繁期に自家農業を手伝うことは一般的な姿であると考えられる。

このような農業とのかかわりを持つ児童は農業をどのように評価しているのだろうか。第5表に農業の評価を示した。該当項目には複数回答を求めたのであるが、瓦房店市での回答数は中学生1.00、小学生1.03であり、最も該当する項目1つを選択したと判断できる。この点に注意すると、

瓦房店市、普蘭店市両事例ともに、農業は「自然を相手にする良い産業」、「環境を大事にする産業」という肯定的な評価がなされているといえよう。しかしながら、中学生になると農業は「労働のきつい産業」という評価が小学生よりも高くなっている。このような労働への評価が先の自家農業へのかかわりを後退させているのではないかと考えられる。この点、普蘭店市では女子比率の高さが影響している可能性も考えられる。また、該当項目に対して複数回答が行われた普蘭店市の事例では、肯定的な農業評価が大半を占めてはいるが、中学生では農業は「自然を相手にする大変な産業」、「環境を壊す産業」という回答が少なからず見受けられ、農業を否定的に評価している児童も存在している。

3) 進学と職業選択意向

(1) 進学意向

事例児童の進学意向を第6表に示した。「大学にまで進学したい」とする回答が最も多く、進学意欲はきわめて高い実態にある。しかし、小学生と中学生では「大学にまで進学したい」回答割合が異なっている。瓦房店市、普蘭店市ともに小学生の大学進学意向は90%強と高いが、中学生になると大学進学意向は最も意向の高い回答項目ではあるが、60%・70%台に低下する。大学進学意向

に代わって、瓦房店市では「中学卒業でよい」が30%、普蘭店市では「高校卒業でよい」が18%の回答割合になっている。中学生になると、より具体的・現実的に進学可能性などを考慮するようになるため、大学進学意向が最も多いものの、中卒、高卒と回答する児童が多くなると考えられる。とはいえ、ここでは中学生においても大学進学意向がきわめて強く、その割合は60%以上であることに注目しておきたい。

(2) 職業選択意向

このような高い進学意向を持つ事例児童の職業選択意向はどのような実態にあるのか、また、その際の就職場所をどのように考えているのかをみてみよう。第7表に職業と就職場所の意向を示した。「農業をやりたい」と回答した児童は、普蘭店市の中学生と瓦房店市の小学生に存在したが、1、2名であり、最も多い回答は「他の職業に就きたい」であり、普蘭店市の中学生を除き、95%を超えている。普蘭店市の中学生で「他の職業に就きたい」が80%強にとどまっているのは、数名の児童が「一度他の職業につき、その後農業をやりたい」という回答を行っているためである。この実態からすれば、大半の児童は農業以外の職業に就くことを希望しており、農業を希望する児童はごく稀な存在であるといえよう。そして、職業

第6表 進学意向

単位：回答数，%

	中学2年		小学4年		中学2年		小学4年	
	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市
回答数	30	28	30	37	100	100	100	100
中学卒業でよい	9	2	0	0	30.0	7.1	0.0	0.0
高校卒業でよい	2	5	0	2	6.7	17.9	0.0	5.4
大学にまで進学したい	19	21	30	35	63.3	75.0	100.0	94.6

資料・注：第3表と同じ

第7表 職業と就職場所の意向

単位：回答数，%

	中学2年		小学4年		中学2年		小学4年	
	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市
回答数	30	27	30	34	100	100	100	100
職業について								
農業をやりたい	0	2	1	0	0.0	7.4	3.3	0.0
他の職業につきたい	29	22	29	34	96.7	81.5	96.7	100.0
一度他の職業に就き、その後農業をやりたい	1	4	0	0	3.3	14.8	0.0	0.0
就職の場所	29	21	28	37	100	100	100	100
現在地	0	2	1	4	0.0	9.5	3.6	10.8
普蘭店・瓦房店	4	2	2	7	13.8	9.5	7.1	18.9
大連・瀋陽	13	13	23	22	44.8	61.9	82.1	59.5
省外	12	4	2	4	41.4	19.0	7.1	10.8

資料・注：第3表と同じ

選択をより深刻に考える中学生になっても、農業以外の職業を希望する割合に変化はみられない。児童の希望通りの職業選択が可能であるならば、農家の後継者確保はアンケート実施地域では深刻な問題になると考えられる。

さらに、就職場所の希望をみると、最も多いのは調査地が属する中核都市である大連市、さらに遼寧省の省都である瀋陽市であった。しかし、その意向は瓦房店市の中学生では45%であり、同小学生では82%、普蘭店市の中学生、小学生では60%ほどで、事例により異なっている。地元中核都市の次に希望されている場所は、「省外」であり、小学生では10%ほどの希望であるのに対して、普蘭店市の中学生では19%、瓦房店市の中学生では41%であり、中学生になるとより就職範囲を広範囲に考えるようになると思われる。このほか、地元の中心地には10~20%の希望があり、現在地での就業希望は少ないが、20%前後は地元志向があるとみられる。

ところで、農業以外の職業に強い就職意向がみられたが、具体的にはどのような職業を希望しているのだろうか。自由回答で希望する職業を質問した結果を第8表に示した。地域、男女、小・中学を問わず、希望が多い職業は、教師、医師であった。また、小学生では研究者の希望が多く、瓦房店市ではビジネスマンが多く、中学女子ではデザイナーや美容師、瓦房店市の小学男子では軍人や運転手の希望も多くみられた。教師、医師などの職業に人気があり、小学生のうちは研究者な

第8表 希望する職業

	中学生				小学生			
	瓦房店市		普蘭店市		瓦房店市		普蘭店市	
	男	女	男	女	男	女	男	女
回答数	12	12	4	11	21	8	16	17
教師	3	1		3	2	4	2	6
医師		4		1	3	1	5	5
看護師					3	1		1
科学者・研究者			1		3	1	7	1
ビジネスマン	3		1	1	5			
IT産業	1							
商店・飲食店経営	1				1			
デザイナー				3				2
美容師		4						
ネイリスト				1				
建築家	1	1						
警察官	2						1	
消防士							1	
軍人					3			
運転手					4	1		
調理師		1						
画家	1							
芸能人		1						
空手指導者			1					
その他			1	2				2

資料：第3表に同じ

注：2つの職業回答の事例は最初の職業に区分し、職業の具体名がない回答は「その他」とした

どの希望も多いが、より具体的な職業選択が日程に上る中学生になると、その選択も多様になると考えられる。

4) 農業をやらない理由

農業を職業として選択しない児童に、農業をやらない理由について3つまでの複数回答を求めた。第9表によれば、瓦房店市の中学生、小学生ともにほぼ3つを回答し、普蘭店市の中学生、小学生はおよそ2つの項目を選択している。最も多い回答は、瓦房店市の中学生を除き、「親からの他の職業に就くように言われている」であり、瓦房店市の事例は中学生の63%、小学生の59%、普蘭店市の事例では中学生の73%、小学生の76%が選択している。理由は不明であるが、普蘭店市の方が高い選択率となっている。次いで多い回答は、「ほかにやりたい仕事がある」で、瓦房店市の中学生の73%、小学生の45%、普蘭店市の中学生の65%、小学生の38%が選択している。中学生になると、よりやりたい仕事明確になり、農業以外の職業を選択するためと考えられる。

以上、上位2つまでの選択理由は共通しているが、次の3項目については地域性がみられる。これは瓦房店市の事例で3つの項目が選択され、普蘭店市の事例で2つの項目が選択されていることも理由の一つと考えられる。

3つの項目の第1は「農村の生活がいやだ」であり、普蘭店市の事例は20%以下であるのに対して、瓦房店市の事例は40%を超えている。瓦房店市の中学生、小学生の方が農村生活に嫌悪感を持っていると考えられる。第2は「小さい時から農業に接してこなかった」であり、普蘭店市の事例が10%程度であるのに対して、瓦房店市の事例は25%前後の選択率となっている。第3は「農業はビジネスとしての魅力を感じない」であり、普蘭店市の事例は10%強であるのに対して、瓦房店市の事例は25%弱の選択率となっている。

瓦房店市の事例の方が若干農業とのかかわりが希薄な側面をうかがうことができたが（第5表）、ビジネスとしての魅力に関して評価が低位なことから、瓦房店市の方が農業生産の条件が厳しく、特産物などがみだせず、農業の売り上げなどが少ない実態にあるのではないかと推察されるが、検証する統計を持ち合わせていない。

第9表 農業をやらない理由（3つまで選択）

単位：回答数，%

	中学2年		小学4年		中学2年		小学4年	
	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市
回答数	30	26	29	37	100	100	100	100
総回答数・平均選択数	85	57	85	77	2.83	2.19	2.93	2.08
後継ぎではない	2	0	3	1	6.7	0.0	10.3	2.7
農村の生活がいやだ	12	5	13	7	40.0	19.2	44.8	18.9
土や動植物は好きではない	3	0	3	2	10.0	0.0	10.3	5.4
小さい時からあまり接してこなかった	8	2	7	4	26.7	7.7	24.1	10.8
農畜産物は買えばいい	2	4	10	3	6.7	15.4	34.5	8.1
農業はビジネスとしての魅力がない	7	3	7	5	23.3	11.5	24.1	13.5
独力でできるが魅力を感じない	2	1	9	2	6.7	3.8	31.0	5.4
ほかにやりたい仕事がある	22	17	13	14	73.3	65.4	44.8	37.8
親から他の職業に就くよう言われている	19	19	17	28	63.3	73.1	58.6	75.7
その他	8	6	3	11	26.7	23.1	10.3	29.7

資料：第3表に同じ

注：職業で「他の職業に就きたい」と回答した事例を対象とした

参考表 農業をやりたい理由（3つまで選択）

	中学2年		小学4年	
	瓦房店市	普蘭店市	瓦房店市	普蘭店市
回答数	2	6	1	1
後継ぎとして当然	0	2	0	1
農村の生活に愛着を持つ	0	2	1	0
土や動植物相手の仕事が好き	2	2	0	0
小さい時から接していて身近でやすい職業	0	2	1	0
自家用農畜産物の生産ができる	0	1	0	0
農業にはビジネスとしての魅力がある	1	1	0	0
独力で仕事ができる自営業の魅力がある	1	2	0	0
他に適当な仕事が見つからない	0	0	0	0
親から農業をやるように言われている	0	0	1	0
その他	2	3	0	1

資料：第3表に同じ

注：職業で「農業をやりたい」「一度他の職業に就き、その後農業をやりたい」と回答した事例を対象とした

このように幾つかの項目では地域性がみられたが、それよりも回答数が多いのは「親から他の職業に就くよう言われている」、「ほかにやりたい仕事がある」であり、事例児童は主体的にも、さらには家庭内においても農業を職業として選択する条件・環境にないと考えられる。こうしたことから、さきにみた職業選択の意向はかなりの精度で実践されるのではないかと考えられよう。

他方、農業をやりたい理由に関しては回答事例が少ないが、参考として示した（参考表）。「後継ぎとして当然」という回答数は普蘭店市の中学生2名と小学生1名であり、跡継ぎだから農業従事という考えは一般的ではないと考えられる。こうしたことを反映してか、「親から農業をやるように言われている」と回答したのは1名にとどまっている。「農業にはビジネスとしての魅力がある」、「独力で仕事ができる自営業の魅力がある」という、農業経営主としての事業面を評価している面も見受けられるが、「農村の生活に愛着を持つ」、「土や動植物相手の仕事が好き」といった、自然と密着した農業・農村生活を評価する回答が多いように見受けられる。

4. 大連市近郊農村の職業選択意向

本稿では都市と農村の格差問題など三農問題が指摘される中国において、地方中核都市近郊の農村部の中学生と小学生の職業選択意向を把握した。とはいえ、その意向は大連市近郊農村の一事例研究であることには注意が必要である。

事例地域の児童の職業選択意向に関して、内モンゴル牧畜地域での事例研究も考慮して、その特徴を整理すると、次の通りである。一人っ子政策下ではあったが、きょうだい2名という事例が多く見られた。内モンゴルの事例では強い農業との関わりがみられたが、本事例では農業へのかかわりは小学生の時は多いが中学生になると低下する傾向にあると考えられた。そして農業の評価は中学生になると、労働のきつい産業となるほか、瓦房店市では相対的に普蘭店市よりも農業の評価が低位であった。

進学意向は中学生になると低下するが、大学への進学希望が最も多く、小学生ではほとんどの児童が大学進学を希望していた。職業選択では、中学生、小学生ともに事例的に農業を選択する例がみられる程度であった。また、就職先については、遼寧省の2大都市である大連市と瀋陽市が最も多く、省外への転出希望は瓦房店市の中学生で高かった。また、内モンゴルでの事例調査よりもつきたい職業を持つ児童が多くみられたが、大連市近郊農村においても、職業選択に関して親の影響が大きいことが明らかになった。

アンケートの意向がそのまま現実の職業選択に結果するとは考えられない。しかしながら、農業を

職業として選択する児童はきわめて少数と考えられる。このことが中国農業の構造再編につながるのか、農業衰退につながるのか、さらに事例調査を重ねたい。

本アンケートの依頼、回収には、北海道大学大学院農学院 尹冠球氏の協力を得た。記して感謝申し上げる。

註

(註1) 三農問題については、経済産業省(2005)、労働力問題に関しては明石(2010)を参照。

(註2) 志賀(2012)参照。

また、両地域で使用したアンケート調査の作成には柳村ほか(2003)を参照にした。

(註3) 農畜産業振興機構(2011)第3章参照。

引用・参考文献

明石光一郎(2010):中国の農業労働力の動向,中国の食糧生産貿易と農業労働力の動向,平成21年度カントリーレポート,農林水産政策研究所。

経済産業省(2005):『通商産業白書』2005年度版,第2章第1節, pp.115-119。

志賀永一(2012):中国牧畜地域の農家子弟の職業選択意向に関する事例報告—内モンゴル自治区・赤峰市の2つの小学校を対象として—,日本農業経営学会『農業経営研究』第50巻第2号, pp.90-93, 2012. 9。

農畜産業振興機構(2011):独立行政法人農畜産業振興機構編『中国野菜産地の変貌』農林統計出版, 2011. 3。

柳村俊介・田中規子(2003):農家出身学生の就農意識に関するアンケート調査分析,酪農学園大学農業経済学科編『農業経済分析と歴史学』酪農学園大学エクステンションセンター。